

大綱心で交通安全!

鹿児島県民のための自転車の安全で適正な利用に関する条例などについて

Vol.2

【問合せ】
 ▼鹿児島県交通安全協会薩摩川内地区協会
 ☎ 25 31100
 ▼本庁防災安全課危機管理グループ
 ☎ 23 51111 (内線4932)

3月に、自転車が関係する交通事故の防止、被害者の保護などを目的に、自転車の利用者、保護者、事業者など、関係者の役割や義務などを定めた県の条例が制定され、自転車保険への加入や乗車時のヘルメット着用などが義務化されました。



関係者の役割などについて

利用者	自転車利用者	事業者	保護者	学校長
利用する自転車の点検・整備・施錠	貸し出す自転車の点検・整備	従業員への指導や事業で使う自転車の点検・整備	子どもに対する技術や知識の習得	交通安全教育の実施

すでに、施行されている事項は次のとおりです。
 ①販売業者が、自転車損害保険への加入を確認する義務
 ②高齢者の同居者などが、高齢者へのヘルメットの着用を助言する努力義務

10月1日から義務化される事項

- ①自転車損害賠償保険などの加入
 * 自転車利用者、自転車貸付業者、事業者が対象です。
- ②ヘルメットの着用
 * 自転車利用者は、同乗の幼児に着用させなければいけません。
 * 保護者は、中学生以下の子どもに着用させなければいけません。

「大綱心の交通安全プロジェクト」について

本市では、平成27年から鹿児島国体が開催される平成32年までに、年間交通事故死者ゼロを目標とする「大綱心の交通安全プロジェクト」を推進して

の交通安全プロジェクト」を推進しています。

▼目標

- ・年間交通事故死者数「0人」
- ・交通事故発生件数の半減

▼キャッチフレーズ

「大綱」の語呂合わせで

- お「おはよう」から
- お「おやすみ」まで
- つ「常に交通安全を意識して
- な「無くそう」交通事故!!

*「薩摩川内市民は大綱の心で、1年365日、朝起きてから夜寝るまで、いつも交通安全を意識する気持ちを持ち、日本一交通事故の少ない、交通マナーの良い、安全・安心なまちを目指す」という意味が込められています。



- ▼運動指定日
 ・毎月22日「大綱心で交通安全の日」
 ・川内大綱引当日
 「交通事故と交通違反ゼロを目指す日」
 ・10月10日「3ライト点灯の日」
 ・12月10日から1月10日まで「5時ライト作戦」
- ▼運転免許証自主返納メ리트制度
 運転免許証を自主返納した高齢者を対象に、市内のタクシー会社で利用できるタクシードレス5000円分を、1回に限り交付します。(平成28年度から実施)



男女共同参画情報コーナー



～一人一人が幸せを実感できるまちへ～

【編集】＝「とらいあんぐる」編集員

【問合せ】＝本庁企画政策部 ひとみらい政策課
 ひとみらい政策グループ
 ☎(23)51111 (内線4741)

昨年12月に里中学校で「子どもたちの男女共同参画学びの広場推進事業」が実施されました。
 これは、子どもの頃から男女共同参画への理解を深めてもらうため、教育現場における取り組みを推進する目的で、平成25年度から県が実施しているものです。児童・生徒のワークショップ、教職員セミナー、保護者・地域住民のワークショップを通し、地域全体の人権や男女平等に対する意識の醸成を図ります。

「判断できる力」に向けて、自ら考え、

島内に高校がないため、甌島の子

学校は「?」を「!」に変える場所

子どもたちの男女共同参画学びの広場推進事業 in 里中学校

子どもたちは、中学校卒業と同時に親元を離れます。この「島立ち」に向けて、自ら考え、判断できる力を養うために、この事業に里中学校が応募。多くの人々との関わりの中で他者を尊重する心や態度を育み、自分自身を成長させることのできる子どもになってほしいとの願いが込められています。この事業を通して、子どもたちが自分自身を振り返り、人権感覚と実践力を高め、それをサポートする教職員・保護者・地域住民の人権感覚の高揚と、学校における指導法の改善についてもヒントを得たいという学校側の思いもありました。



▲生徒のワークショップ

【子どもたちの感想】
 ▼考えや気持ちを伝える場合の、自分を主語にして話す「Iメッセージ」と相手を手語にする「Youメッセージ」の違いを聞くまでは、「友達なのだから、私のことを分かってくれているはず」と思っていました。しかし、自分がはっきり言わなければ自分のことも分かってくれないことなど、大事なことに気付かされました。
 ▼私は、自ら手を挙げて発表することができません。いつも心の中で、「間違ったらどうしよう」「合ってるかな」と不安になります。しかし、今日の授業で、失敗することは恥ずかしいことではないということが分かりました。



▲教職員セミナー

【教職員の感想】
 知識として、頭の中では理解できている「共感」や「認め合い」ですが、実際には自分を取り巻くさまざまな要因に影響されていることに、改めて気付かされました。

【保護者の感想】

最後にみんなが笑顔になり、ほんわかした気分になるワークショップでした。
 これまで「人権」という言葉に構えてしまっていたように思いますが、お互いを認め合う普段の活動の中から育てていくものだと感じました。



▲保護者・地域住民のワークショップ

